

REPORT II

世界最高水準の自殺率の構造を探る

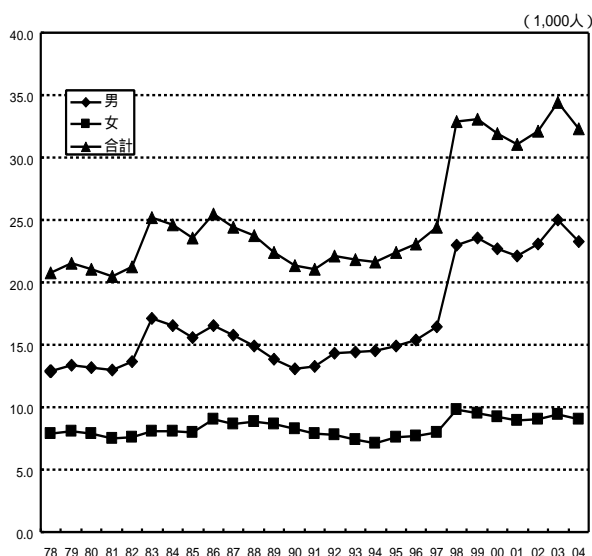
社会研究部門 天野 馨南子
amano@nli-research.co.jp

はじめに

警察庁から発表された「平成15年中における自殺の概要資料」(2004年7月)によれば、2003年におけるわが国の自殺者数は3万4,427人となり、1998年(平成10年)以降6年連続の3万人を超える自殺者数となった。

同資料より1978年(昭和53年)以降のわが国における自殺者の男女別ならびに合計数の推移を分析すると、

図表 - 1 わが国における自殺者の推移



(資料) 警察庁「平成15年中における自殺の概要」より作成

97年から98年にかけて自殺率が大幅に増加し、以降、97年以前のように2万人台へ自殺者数が戻らないことがわかる。同資料より自殺者数の対前年増減率を計算すると、83年の25.3%増加以降、対前年1割以内の増減で推移していたが、97年から98年にかけては40.2%という大幅な自殺率の増加となっている。以降、対前年1割以内の増減を繰り返しながらも、依然、緩やかな自殺者数の増加傾向が続いている。98年の大幅増加は男性の自殺者数と平行した形になっており、男性の自殺者数の急激な増加による影響が大きい(98年:対前年女性23.5%、男性34.7%増加)。

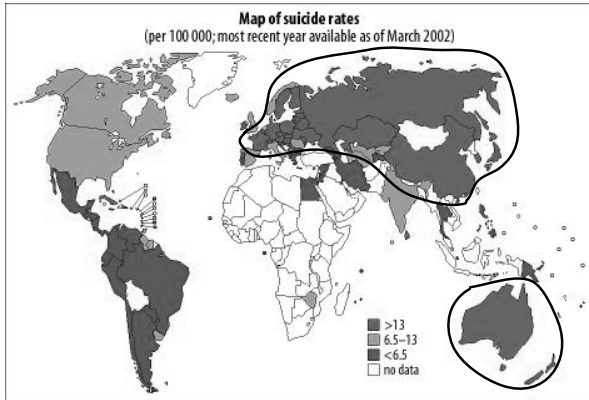
1. 世界最高水準の自殺率

では、わが国における自殺率は国際的に見てどの程度の水準であろうか。この自殺者の数は、国際的に見ても特異な数値なのであろうか。

WHO(世界保健機構)の自殺率マップ(図表-2)を見ると、マップ上線で囲んだ部分で示される「高自殺率国」は旧ソビエト連邦諸国を中心とする北部ヨーロッパ、韓国、日本、オーストラリア、ニュージーランドで、高自殺率国の基準となる人口10万人あたりの自殺者数が

13名を超えている諸国に日本も位置付けられている（以下、自殺率は10万人あたりの自殺者数で比較する）

図表 - 2 WHO自殺率地図



（資料）WHO "Map of suicide rates", 3/2002

WHOの調査によれば、高自殺率国の中では旧ソビエト連邦諸国が最も自殺率の高い国々に名を連ねている。しかし、これらの国はわが国と経済状態が格段に違うこと、また厳寒の気候や政情不安に起因するアルコールに関わる自殺率が高いとのWHOの報告があることを考慮し、本レポートでは、日本と同じくOECD（経済協力開発機構）に加盟する諸国との比較において、改めて日本の状況のみをみることにする。以下、OECD加盟国の自殺率については総務省統計局「世界の統計2003」ならびにWHOの“Suicide Rates(Per 100,000), by country, year, and sex. Most recent year available. As of 2004.”を利用する。

OECD加盟国の自殺率（全体データのないスロヴァキア、男女別データのないトルコを除く）を比較すると、図表 - 3の通り、男女を含めた国全体の自殺率において日本は24.8人と、ハンガリーに次いで28カ国中、第2位の自殺率となった。また、男女別に比較すると、男性は同35.2人で、同じくハンガリーに次いで28カ国

中第2位、女性にいたっては同13.4人で28カ国中第1位という結果となった。OECD諸国内で見てもわが国の自殺率は極めて高い状況にあることがわかる。

図表 - 3 OECD自殺率順位（国全体）

（対10万人）

順位	国名	自殺率	順位	国名	自殺率
1	ハンガリー	32.6	16	アイルランド	13.4
2	日本	24.8	17	オーストラリア	13.1
3	フィンランド	23.4	18	ノルウェー	12.4
4	ベルギー	21.3	19	カナダ	12.3
5	スイス	20.2	20	アイスランド	12.2
6	オーストリア	19.6	21	米国	11.3
7	フランス	18.0	22	オランダ	9.6
8	チェコ	16.1	23	スペイン	8.3
9	ニュージーランド	15.1	24	イタリア	7.8
10	ポーランド	15.0	25	英国	7.5
11	ルクセンブルグ	14.5	26	ポルトガル	5.2
12	デンマーク	14.4	27	ギリシャ	3.8
13	スウェーデン	13.9	28	メキシコ	3.5
14	韓国	13.7			
15	ドイツ	13.6			

図表 - 4 OECD自殺率順位（男性）

（対10万人）

順位	国名	自殺率	順位	国名	自殺率
1	ハンガリー	45.5	16	ニュージーランド	19.8
2	日本	35.2	17	スウェーデン	18.9
3	フィンランド	32.3	18	ノルウェー	18.4
4	ベルギー	31.2	19	カナダ	18.4
5	オーストリア	30.5	20	アイスランド	17.3
6	ルクセンブルグ	28.6	21	米国	17.1
7	スイス	27.8	22	スペイン	13.1
8	ポーランド	26.7	23	オランダ	12.7
9	フランス	26.1	24	英国	11.8
10	チェコ	26.0	25	イタリア	10.9
11	デンマーク	21.4	26	ポルトガル	8.5
12	ドイツ	20.4	27	ギリシャ	5.7
13	韓国	20.3	28	メキシコ	5.4
14	アイルランド	20.3			
15	オーストラリア	20.1			

図表 - 5 OECD自殺率順位（女性）

（対10万人）

順位	国名	自殺率	順位	国名	自殺率
1	日本	13.4	16	オーストラリア	5.3
2	ハンガリー	12.2	17	カナダ	5.2
3	ベルギー	11.4	18	アイスランド	5.1
4	スイス	10.8	19	ポーランド	4.3
5	フィンランド	10.2	20	アイルランド	4.3
6	ルクセンブルグ	10.2	21	ニュージーランド	4.2
7	フランス	9.4	22	米国	4.0
8	オーストリア	8.7	23	スペイン	4.0
9	韓国	8.6	24	イタリア	3.5
10	スウェーデン	8.1	25	英国	3.3
11	デンマーク	7.4	26	ポルトガル	2.0
12	ドイツ	7.0	27	ギリシャ	1.6
13	チェコ	6.3	28	メキシコ	1.0
14	オランダ	6.2			
15	ノルウェー	6.0			

（資料）総務省統計局「世界の統計2003」、WHO "Suicide Rates(Per 100,000), by country, year, and sex. Most recent year available. As of 2004." より作成、自殺率は10万人あたりの自殺者数。

(1) 自殺率の男女格差の傾向

次に、日本については男性の自殺者数が女性の自殺者数よりもはるかに多いことを先の図表 - 1 に示したが、では、自殺率の男女格差について、国際的にはどのような状況であろうか。図表 - 6 はWHO男女別数値を基準に、10万人あたりの自殺者数を男性 + 女性で計算し、その数に男性が占める割合を算出したものである。

図表 - 6 OECD自殺男女格差順位

順位	国名	男性比率	順位	国名	男性比率
1	ポーランド	86.1%	16	フィンランド	76.0%
2	メキシコ	84.4%	17	イタリア	75.7%
3	アイルランド	82.5%	18	ノルウェー	75.4%
4	ニュージーランド	82.5%	19	ドイツ	74.5%
5	米国	81.0%	20	デンマーク	74.3%
6	ポルトガル	81.0%	21	ルクセンブルグ	73.7%
7	チェコ	80.5%	22	フランス	73.5%
8	オーストラリア	79.1%	23	ベルギー	73.2%
9	ハンガリー	78.9%	24	日本	72.4%
10	英国	78.1%	25	スイス	72.0%
11	ギリシャ	78.1%	26	韓国	70.2%
12	カナダ	78.0%	27	スウェーデン	70.0%
13	オーストリア	77.8%	28	オランダ	67.2%
14	アイスランド	77.2%			
15	スペイン	76.6%			

(資料) WHO “Suicide Rates(Per 100,000),by country, year, and sex. Most recent year available. As of 2004.” より作成。

日本においては自殺者数が毎年政府から公表される度に、男性の自殺者数が非常に多いことが問題として取り上げられる。自殺者数の7割を男性が占めることを問題視する観点、自殺防止の観点から引き続き大切な視点ではあるが、国際的に見るとこの「自殺者を占める大半が男性」問題は日本に限らず、世界共通の悩みであることがわかる。国際的に見ると日本は自殺者に占める男性の割合は低い方に位置している。

(2) 多発年齢層の傾向

国際比較の最後に、自殺者の多発年齢層について比較してみたい。警察庁の2003年の自殺者の年齢別、男女別統計値から、2003年中に自殺した人の年代別割合(男女別)を図表 - 7 に示している。

図表 - 7 自殺者に占める年齢別割合(日本)

	19歳以下	20代	30代	40代
男	1.1%	6.8%	9.8%	12.7%
女	0.7%	2.9%	3.6%	3.0%
	50代	60歳以上	年齢不詳	
男	20.0%	21.2%	0.9%	
女	5.0%	12.2%	0.8%	

(資料) 警察庁「平成15年中における自殺の概要」より作成、平成15年数値。

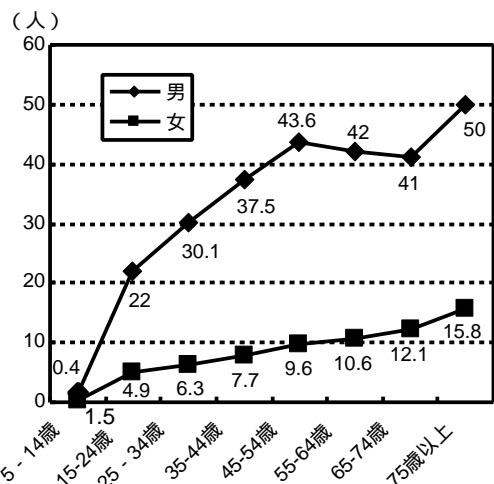
統計上19歳以下と60歳以上はそれぞれ1つのグループとしてまとめられているため、60歳以上についての詳細は分からないが、最も自殺者数が多いのは60歳以上の男性(21.2%)、次に多いのが50代男性(20.0%)であった。この2グループは共に総自殺者数の2割を占め、50歳以上の男性だけで自殺者数の4割を占めている。3番目に自殺者数が多いグループは40代の男性の12.7%であり、40代以上の男性だけで自殺者総数の実に半数を占める結果となった。警察庁統計資料によれば、日本においては10歳刻みのグループ別に見ると50代男性が最も自殺率が高い傾向が続いている。

わが国の自殺者の年齢は国際的に見てどのような特徴があるだろうか。

WHOの“Changes in the age distribution of cases of suicide”の1985年と2000年との比較によれば、国際的にも45歳以上自殺者数の増加による平均自殺年齢の高齢化が進んでおり、2000年における年代別の自殺率は図表 - 8の通りとなった。多くの国においては、自殺率の高齢化の原因は主に75歳以上の男性高齢者の自殺の増加によるものである。図表 - 8においても75歳以上の男性が最も自殺率が高い年齢であることが示されている。次に再びOECD諸国と比較してみることとする。75歳以上の男性自殺者が最多層となる国は、先のOECD諸国においても(図表 - 3の国内総自殺率の高い順に)ハンガリー、フィンランド、ベルギー、スイス、

オーストリア、フランス、チェコ、デンマーク、スウェーデン、韓国、ドイツ、ノルウェー、米国、オランダ、スペイン、イタリアなど半数以上の15カ国にのぼる（図表 - 9）。以上より、高齢化が進む先進諸国では、75歳以上の男性自殺が主流となっている状況がうかがえる。

図表 - 8 年齢別自殺率（世界）



（資料）WHO “ Distribution of suicide rates (Per 100,000), by gender and sex, 2000. ” より作成。

図表 - 9 OECD 75歳以上男性自殺の多い国

順位	国名	自殺率	順位	国名	自殺率
1	ハンガリー	32.6	16	アイルランド	13.4
2	日本	24.8	17	オーストラリア	13.1
3	フィンランド	23.4	18	ノルウェー	12.4
4	ベルギー	21.3	19	カナダ	12.3
5	スイス	20.2	20	アイスランド	12.2
6	オーストリア	19.6	21	米国	11.3
7	フランス	18.0	22	オランダ	9.6
8	チェコ	16.1	23	スペイン	8.3
9	ニュージーランド	15.1	24	イタリア	7.8
10	ポーランド	15.0	25	英国	7.5
11	ルクセンブルグ	14.5	26	ポルトガル	5.2
12	デンマーク	14.4	27	ギリシャ	3.8
13	スウェーデン	13.9	28	メキシコ	3.5
14	韓国	13.7			
15	ドイツ	13.6			

（資料）WHO “ Suicide Rates(Per 100,000),by country, year, and sex. Most recent year available. As of 2004. ” 等より作成。網掛部分が該当国。

OECD諸国において75歳以上の次に目立つ自殺多発年齢帯は、ニュージーランド、アイルランド、オーストラリア、カナダ、アイスランド、英国などの25歳から44歳までの若手層の自殺である。この点は世界的な流れからはやや外

れた傾向である。

以上から日本は自殺年齢帯において、OECD諸国の中では特徴的な位置にあることがわかる。しかし、図表 - 8に戻ると、45歳から55歳のいわゆる中高年男性の自殺率は国際的に見れば75歳以上男性に次いで高く、WHOデータと現在の日本の状況が大きくかけ離れているということはない。

日本では50代男性の自殺が最も多い。これはOECD諸国内で少数派である。しかし、世界的視点で見れば多数派に属する。

日本と同じく50代男性が最多自殺率の国は、OECD諸国ではなく、実はカザフスタン等、旧ソビエト連邦諸国に多い。つまり経済状態が日本と似通ったOECD諸国よりも、経済状態に格段の差がある国々の自殺年齢構造に、日本は似た状況となっているのである。故に、OECD諸国内での比較では日本の男性自殺最多年齢帯は少数派であっても、WHOの世界統計に基づけば一般的な年齢帯に位置しているのである。

2. 50代男性を悩ます経済問題

OECD加盟国のような先進諸国の中では比較的珍しい、50代男性の自殺が主流の日本であるが、それでは何故、50代男性は自殺をするのだろうか。

そこで、わが国の自殺のうち遺言書の残っているものについての警察庁の統計を用いて、年齢別、男女別に自殺理由を見ていきたい。

警察庁の統計によると平成15年度において遺言書が残されていた自殺のうち、約7割の7,806件が男性の遺言となっている。そのうち遺言が最も多かったのは50代男性の2,322件である。この2,322件について自殺理由をみると、半数以上

図表 - 10 年代別男女別自殺理由

		19歳以下	20-29	30-39	40-49
男	遺言あり	109	702	1025	1404
	うち経済問題	6	195	382	702
	%	5.5%	27.8%	37.3%	50.0%
	うち勤務問題	3	69	134	163
	%	2.8%	9.8%	13.1%	11.6%
	うち健康問題	27	159	238	300
%	24.8%	22.6%	23.2%	21.4%	
女	遺言あり	68	291	285	280
	うち経済問題	1	9	31	56
	%	1.5%	3.1%	10.9%	20.0%
	うち勤務問題	1	21	6	8
	%	1.5%	7.2%	2.1%	2.9%
	うち健康問題	23	155	149	147
%	33.8%	53.3%	52.3%	52.5%	
合計		589	3,247	4,333	5,102
		50-59	60歳以上	合計	
男	遺言あり	2322	2250	7812	
	うち経済問題	1235	605	3125	
	%	53.2%	26.9%	40.0%	
	うち勤務問題	179	35	583	
	%	7.7%	1.6%	7.5%	
	うち健康問題	560	1199	2483	
%	24.1%	53.3%	31.8%		
女	遺言あり	542	1155	2621	
	うち経済問題	106	108	311	
	%	19.6%	9.4%	11.9%	
	うち勤務問題	5	4	45	
	%	0.9%	0.3%	1.7%	
	うち健康問題	318	811	1603	
%	58.7%	70.2%	61.2%		
合計		7,772	10,994	10,995	

(資料) 警察庁「平成15年中における自殺の概要」より作成。割合は同じ性別同じ年代の遺言書数を100%とした時の割合。

の53.2% (1,235件) が借金・生活苦を訴えた「経済問題」を理由とするものであった。2番目に多い「健康問題」の24.1%を大きく上回っている。

50代男性に次いで自殺率が高かった40代男性についても、同じく50.0% (702件) が「経済問題」を第1位の自殺理由としており、40歳から59歳までの中高年男性の自殺における経済問題の根深さがうかがえる。60歳以上のグループについては高齢化諸国に共通に見られる「健康問題」が53.3%となっている。

一方、女性の自殺について見ると、「経済問題」の理由が少ない点が男性との大きな相違点である。女性に関しては20代から60歳以上にいたる各世代において「健康問題」が5割を超えて第1位の自殺理由となっており、50歳以上では6～7割の自殺理由を占めている。経済問題

理由は40代から50代女性において若干増え、約2割程度となる。OECD諸国の過半の国で75歳以上の自殺率が高いことと、日本の女性の加齢とともに健康問題を理由とする自殺が増える状況は整合的であるといえる。

以上の結果から、日本において主流となっている自殺は50代男性の経済的悩みによるものであることを前提に、日本の実際的な経済状況について、再度OECD諸国との比較において検討してみたい。

3. 実情と意識の乖離

OECDで最高水準の自殺率であり、かつその原因が50代男性の経済問題である日本はOECD諸国の中において、どの程度の豊かさであろうか。OECD諸国には珍しく旧ソビエト連邦諸国と似た自殺年齢構造を持ち、自殺者の悩みの第1位が「経済問題」である日本は、この結果だけを見ると経済状態が苦しい国であるかのようである。

自殺率と経済状態の関係を見るために、自殺率データの不足しているスロヴァキアとトルコを除いた加盟28カ国における1人当たりGNP(米ドルベース)を比較すると(図表-11)日本は3万3,727米ドルで第9位であり、特段経済

図表 - 11 OECD 1人当たりGNP

順位	国名	1人あたりGNP	順位	国名	1人あたりGNP
1	ルクセンブルグ	58,440	16	ドイツ	29,136
2	ノルウェー	48,754	17	カナダ	27,512
3	スイス	44,584	18	オーストラリア	25,731
4	デンマーク	39,599	19	イタリア	25,571
5	アイルランド	38,416	20	スペイン	20,424
6	米国	37,424	21	ニュージーランド	19,953
7	アイスランド	36,252	22	ギリシャ	15,779
8	スウェーデン	33,965	23	ポルトガル	14,635
9	日本	33,727	24	韓国	12,691
10	オランダ	31,715	25	ハンガリー	8,381
11	オーストリア	31,150	26	チェコ	8,343
12	フィンランド	31,070	27	メキシコ	6,051
13	英国	30,341	28	ポーランド	4,894
14	フランス	29,249			
15	ベルギー	29,201			

(資料) 総務省統計局「世界の統計2003」より作成。単位は米ドル。

状況が厳しい国という結果は出てこない。

ここで図表 - 11の結果を参考に、1人当たりGNPが3万米ドル以上の国をOECD経済上位国とここで定義し、改めてOECD経済上位国の自殺率を比較してみたい。

図表 - 12 経済上位国の自殺率

順位	国名	自殺率	順位	国名	自殺率
1	ハンガリー	32.6	16	アイルランド	13.4
2	日本	24.8	17	オーストラリア	13.1
3	フィンランド	23.4	18	ノルウェー	12.4
4	ベルギー	21.3	19	カナダ	12.3
5	スイス	20.2	20	アイスランド	12.2
6	オーストリア	19.6	21	米国	11.3
7	フランス	18.0	22	オランダ	9.6
8	チェコ	16.1	23	スペイン	8.3
9	ニュージーランド	15.1	24	イタリア	7.8
10	ポーランド	15.0	25	英国	7.5
11	ルクセンブルグ	14.5	26	ポルトガル	5.2
12	デンマーク	14.4	27	ギリシャ	3.8
13	スウェーデン	13.9	28	メキシコ	3.5
14	韓国	13.7			
15	ドイツ	13.6			

(資料) 総務省統計局「世界の統計2003」より作成。色付き部分が経済上位国。

WHOが定義する人口10万人あたりの自殺者が13人以上の「高自殺率国」であり、かつOECD経済上位国であるのは、図表 - 12から日本、フィンランド、スイス、オーストリア、ルクセンブルグ、デンマーク、スウェーデンの7カ国であった。

これらの国は、経済的に豊かであるのに自殺が多い国であるが、このうち、日本とルクセンブルグを除く5カ国は75歳以上の自殺者が最も多いという、高齢化に伴う自殺要因が大きいと考えられる国々である。自殺率が高いことについては、経済的要因よりも年齢的要因が強く影響していると考えられている。

しかし日本はこれらの国のように自殺の主流は75歳以上ではなく、50代である。そして、その理由が「経済問題」であるということから、OECD経済上位国の中では他国に見られない特徴的な存在であることが見えてくる。

豊かな国家経済の状況と人々（特に男性）との心理の乖離は一体何故うまれるのだろうか。

一つ注目に値するデータをあげるとすれば、1人当たりGNPが2万ドル以上であるOECD諸国の自殺率増減を比較すると、日本が群を抜いて第1位の49.4%増加だということである（総務庁「世界の統計」1993年と2003年の比較 - 1990年前後と2000年前後の各国数値の比較となる）。増加率第2位のアイルランドの36.7%以外の他の諸国は、2割程度までの増減にとどまっており、日本の増加率は突出している。

実はこの10年間に日本は91年のバブル経済の崩壊、その後の景気の長期低迷を経験している。このような経済背景を考えると、グローバルに見た「国家の豊かさ」を実感するどころではないくらい、日本一国内における経済状況の悪化に、日本人の心は大きく傷ついてしまったのかも知れない、と考えるのは筆者だけではないのではないだろうか。

バブル経済の時のようではないが、依然として日本は世界の中で、豊かな国であることに間違いはない。「物で栄えて心で滅ぶ」(故高田好胤 奈良薬師寺管長)という言葉を私自身、あらためてかみしめる結果であった。